

診療報酬改定レポート 8 — 包括期入院医療について —

11 月 5 日に開催された中医協総会において、入院について（その 4）が示されました。
本号では、「包括期（回復期）入院医療について」新たに議論された部分について整理します。

■ 地域包括医療病棟について

《患者像とアウトカム評価について》

- ・ 地域包括医療病棟の届出に当たって満たすことが困難な施設基準として急性期病棟では「休日を含めすべての日にリハビリテーションを提供できる体制の整備」が半数を超えており、「自院の一般病棟からの転棟が 5%未満」「常勤の PT/ST の配置」「ADL が低下した患者が 5%未満」が続きました。
- ・ 85 歳以上の患者は、在院日数の中央値が 85 歳未満と比べて 5～6 日程度延長しています。
- ・ 85 歳以上の高齢者や、要支援・要介護認定者では、それ以外の患者と比較して、退院時に ADL が低下する患者の割合が多いことがわかりました。地域包括医療病棟は主に高齢者の受入れを担う病棟であることから ADL が低下した患者の割合は高くなりやすいのではないかと推測されます。
- ・ 高齢者の特徴や地域包括医療病棟における診療の現状を踏まえ、平均在院日数や ADL 要件等のアウトカム評価のあり方について、今後議論されることになります。

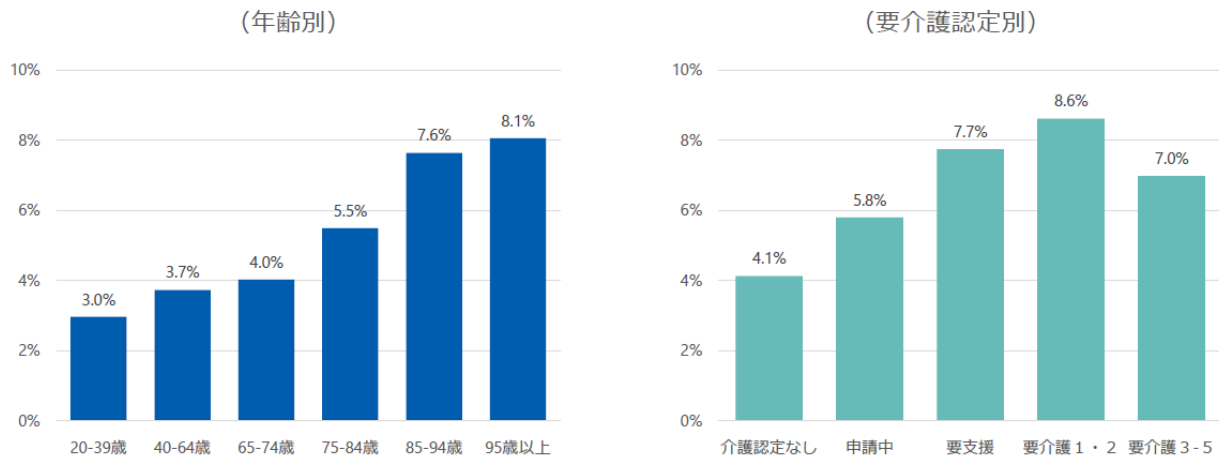
《医療資源投入量について》

- ・ 高齢者の罹る疾患の中で頻度の高い肺炎や尿路感染症等の主として内科的治療を行う疾患は、包括内の出来高実績点数が高く、出来高算定部分が少ないことが示されました。
- ・ 手術実施の有無と救急搬送や緊急入院の頻度をみると、緊急入院の割合が高く、特に 85 歳以上の高齢者においては、手術なし症例の 9 割近くが緊急入院であることが示されました。
- ・ 高齢者の頻度の高い疾患や緊急入院の受け入れ促進に対する評価のあり方について、今後議論されることになります。

ADLが低下する要因

- 85歳以上の高齢者や、要支援・要介護認定者では、それ以外の患者と比較して、退院時にADLが低下する患者の割合が多い。
- 地域包括医療病棟は主としてこうした患者の受入を担う病棟であり、ADLが低下した患者の割合は高くなりやすいと考えられる。

患者属性ごとの退院時にADLが低下する割合

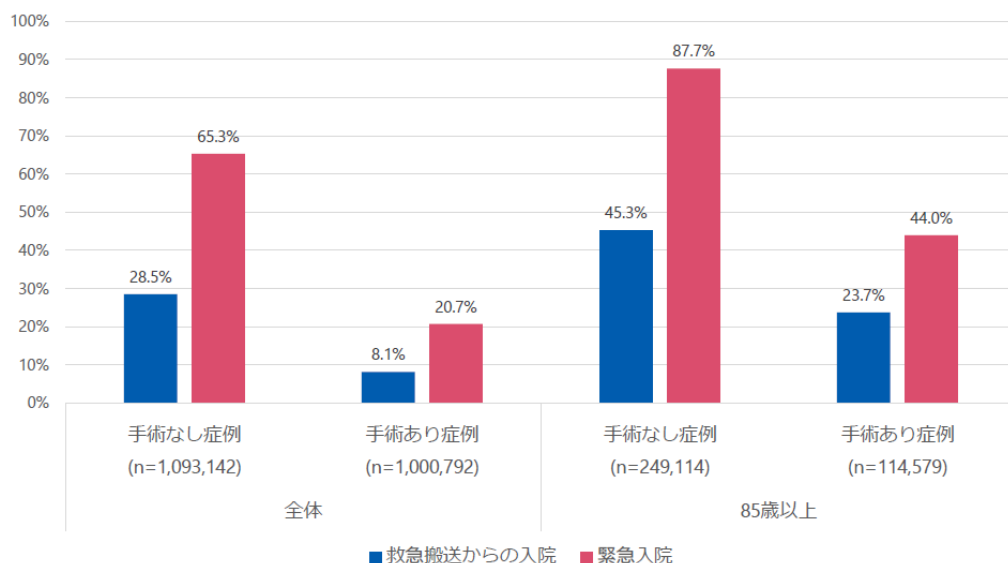


出典：DPCデータ（2024年10月～12月） 地域包括医療病棟において入退院が完結している症例を対象とした。

手術実施の有無と救急搬送や緊急入院の頻度

- 手術を行わない症例においては、救急搬送からの入院や緊急入院の割合が、手術を行う症例と比較して高い。
- 特に85歳以上の高齢者においては、手術を行わない症例の9割近くが緊急入院である。

手術実施の有無と救急搬送・緊急入院の頻度



出典：保険局医療課調べ（2024年10月～12月DPCデータ） 期間内に急性期一般入院料の病棟、地域包括医療病棟に直接入院した症例（非転院・転棟症例）を対象として、手術に係るKコードの算定がある症例を外科系、それ以外を内科系症例と分類し、救急搬送、緊急入院の割合を示した。

■ 地域包括ケア病棟について

《医療資源投入量について》

- 急性期病棟を持つ医療機関の地域包括ケア病棟に直接入院する患者の中には、短期滞在手術等基本料 3 の対象手術を実施する患者が多く、急性期病棟のない医療機関の地域包括ケア病棟では、内科系疾患の直接入院が比較的多いことが示されました。更に、直接入院する患者の割合は、急性期病棟を持つ医療機関では少なく、中でも緊急入院の患者が少ない傾向にあることがわかりました。
- 緊急入院は予定入院に比べ、手術の有無に関わらず包括内の出来高実績点数が高い傾向にあります。このことを踏まえ、今後初期加算の在り方について議論が行われます。

《栄養管理体制について》

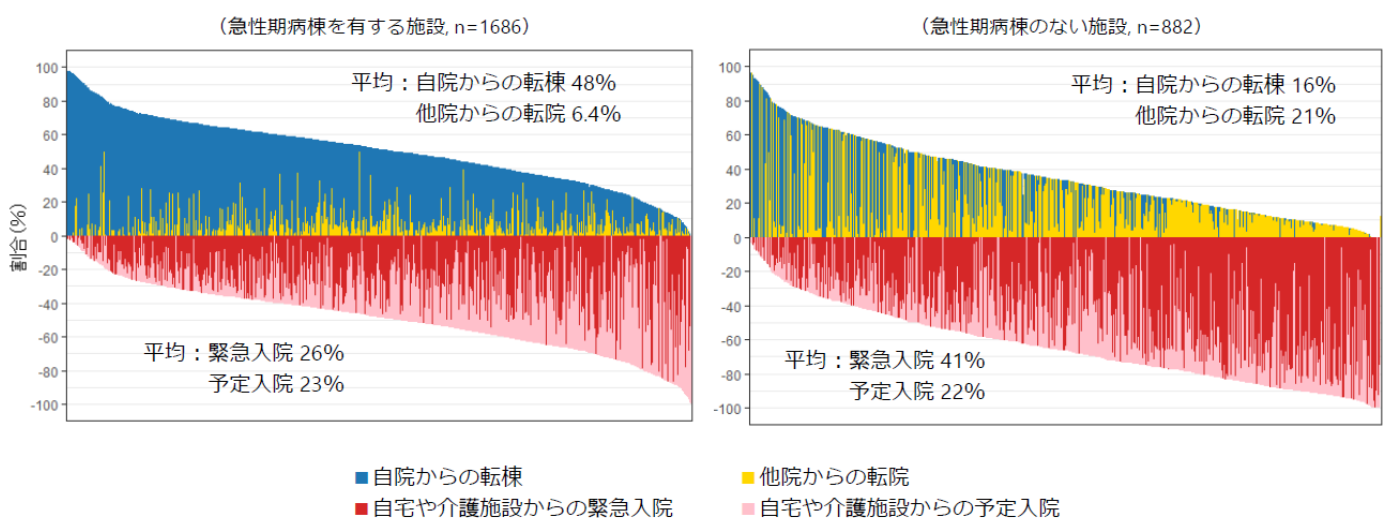
- 地域包括ケア病棟では、管理栄養士の配置基準はなく、栄養管理に係る加算や管理料は包括されています。そのため、40 床あたりの栄養管理士数は少なく、病棟での業務する時間は少ないことが示されました。
- 同じ高齢者の受入れを担う入院料である地域包括医療病棟に比べ、低栄養リスクについて覚知された割合が低いことがわかりました。
- 地域包括ケア病棟においても、適切な栄養管理を行うための体制確保を促す評価の在り方について今後議論が行われます。

地域包括ケア病棟における直接入院患者の割合

診療組 入-1
参 7. 7. 3 改

- 地域包括ケア病棟における転院・転棟を除く直接入院の割合は、施設毎に様々である。
- 急性期病棟を有する施設では、有さない施設に比べ、直接入院する患者の割合は少ない施設が多いものの、施設によっては直接入院を多く受け入れている。また、直接入院のうち、緊急入院の患者が少ない傾向にある。

地域包括ケア病棟における施設ごとの入院経路の分布

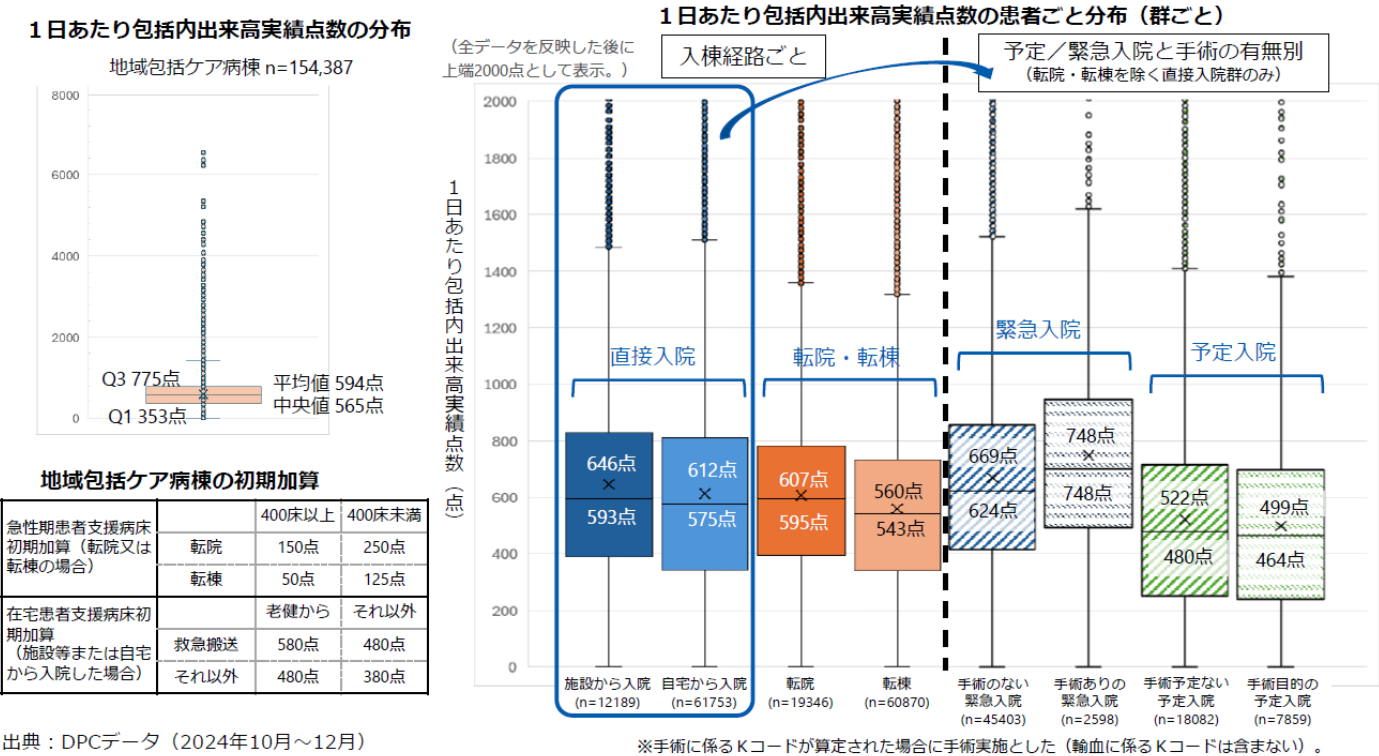


出典：DPCデータ（2024年10月～12月）

地域包括ケア病棟における医療資源投入量

診療組 入-1
7. 9. 11改

- 地域包括ケア病棟における包括内の出来高実績点数は、地域包括医療病棟と比較しばらつきが少なかった。
- 入棟経路による包括内出来高実績点数の差は大きくないが、自院からの転棟ではやや低かった。直接入院した群について、入院種別と手術の有無により群分けすると、地域包括医療病棟のように4群の差は明らかでないが、緊急入院は予定入院に比べ、手術の有無に関わらず包括内の出来高実績点数が高い傾向であった。



出典：2025 年 11 月 5 日 中医協 総一 7

■ 包括期入院医療の評価について

- ・ 地域包括医療病棟・地域包括ケア病棟を有する病院が地域で包括期の医療を担うにあたり、高齢者救急の受入や在宅・施設の後方支援の機能についても今後議論が行われます。
- ・ 急性期一般入院基本料 2 - 6 と地域包括医療病棟の機能は重複がみられることから、患者ごとにどちらの病棟がより適するかの判断を要することを踏まえ、入院時胃に患者の病態が明らかでない中で受入を円滑に行う体制を確保するための在り方についても今後議論が行われます。

株式会社ユアーズブレンでは、診療報酬の解釈や指導監査対策等、医事に関する様々なご質問・ご相談に対応する「**医事相談室**」サービスを提供しております。

詳細をご希望の方は <https://www.yb-satellite.co.jp/original9.html#a04> から、または TEL：082-243-7331 e-mail：info@yb-satellite.co.jp からお問合せください。